

総括整理表						
保護林名	西ノ川山トガサワラ(遺伝資源)希少個体群保護林		写真1 プロット1		写真2 プロット2	
管轄森林管理局・署名	安芸森林管理署管内					
所在地	高知県安芸市(美舞谷山国有林 35林班ろ小班)					
面積	7.88 ha					
設定・変更年	設定: 大正 5年8月 変更: 平成30年4月					
写真3 プロット4						

保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約450~780mに位置し、暖温帯に属する。トガサワラのほか、ヒノキ、アカマツ、モミ、ツガ、アカガシ等が生育している。希少種のトガサワラ(環境省レッドリスト(2015年)の「絶滅危惧ⅠB類(EN)」、高知県レッドリスト(2010年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」)が生育しており、保護林設定管理要綱の第4の3(2)のア「希少化している個体群」に該当する。トガサワラの個体群の維持・増殖を目的に設定。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	過年度には森林プロット調査、トガサワラの毎木調査、哺乳類調査などが実施されている。森林調査結果から、森林全体の衰退は見られないものの、トガサワラの後継木が少ない状況であったことから、トガサワラの世代更新が滞っていることが示唆された。哺乳類調査結果では、プロット内でニホンジカが多く確認された。目立ってニホンジカによる森林への被害は見られないものの、今後の森林への被害を注視する必要がある。	
	モニタリング実施間隔	5年(トガサワラの毎木調査は10年)			
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林【森林法】			実施時期・回数

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林。周辺は人工林が広く分布。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種の生育状況に変化はなし。プロット3で胸高断面積合計が減少したが、他は増加しており、目立って森林の衰退はないと考えられる。保護林内のトガサワラは、成木の枯損木に大幅な増減はないが、実生及び稚樹が減少しており、後継木が定着していないと考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも下層植生の植被率は低く、高木層を形成する樹種の実生や稚樹は少ない。また、低木層を欠くプロットが多い。プロット内には、トガサワラの実生及び稚樹の生育は無し。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	5目10科14種の哺乳類を確認。希少種は ニホンジカ の3種。現状はニホンジカによる森林への被害は軽微と考えられる。
論文等の発表状況	資料調査	トガサワラに関する生態や遺伝構造、根に共生する菌根菌に関する論文や学会での発表がされている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	トガサワラの保護林を周知するための看板の設置、国立研究開発法人 森林研究・整備機構や大学による研究のフィールドとして利用されている。

評価・課題等	<p>【確認された影響: <u>ア</u>野生鳥獣 <u>イ</u>病虫害 <u>ウ</u>外来種 <u>エ</u>温暖化 <u>オ</u>自然攪乱 <u>カ</u>その他】</p> <p>保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られないが、トガサワラの後継木が少ない状況である。後継木となる稚樹の発生と定着方法については、森林総合研究所が2022年に取りまとめる報告書の内容を踏まえて検討する。現状では、目立ってニホンジカによる森林への被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。</p>
--------	--

総括整理表							
保護林名	魚梁瀬トガサワラ(遺伝資源)希少個体群保護林				写真1 プロット1	写真2 プロット2	写真3 プロット4
管轄森林管理局・署名	安芸森林管理署管内						
所在地	高知県馬路村(貝掛畑山国有林 2065林班ほ小班)						
面積	16.02 ha						
設定・変更年	設定：昭和43年4月 変更：平成30年4月						

保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約450～650mに位置し、暖温帯に属する。 トガサワラのほか、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、ウラジロガシ等が生育している。 希少種のトガサワラ(環境省レッドリスト(2015年)の「絶滅危惧ⅠB類(EN)」、高知県レッドリスト(2010年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」)が生育しており、保護林設定管理要綱の第4の3(2)のア「希少化している個体群」に該当する。 トガサワラの個体群の維持・増殖を目的に設定。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	過年度には森林プロット調査、トガサワラの毎木調査、哺乳類調査などが実施されている。 森林調査結果から、森林全体の衰退は見られないものの、トガサワラの後継木が少ない状況であったことから、トガサワラの世代更新が滞っていることが示唆された。 哺乳類調査結果では、プロット内でニホンジカが多く確認された。目立ってニホンジカによる森林への被害は見られないものの、今後の森林への被害を注視する必要がある。
	モニタリング実施間隔	5年(トガサワラの毎木調査は10年)			
	法令等に基づく指定概況	魚梁瀬県立自然公園普通地域【自然公園法】 水源かん養保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】		実施時期・回数	平成22年度、平成28年度

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林。周辺は人工林が広く分布。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種の生育状況に変化はなし。プロット3で胸高断面積合計が減少したが、他は増加しており、目立って森林の衰退はないと考えられる。保護林内のトガサワラは、成木の枯損木が増加したことに加え、実生及び稚樹が減少しており、後継木が定着していないと考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも下層植生の植被率は低く、高木層を形成する樹種の実生や稚樹は少ない。プロット内には、トガサワラの実生及び稚樹の生育は無し。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	5目10科13種の哺乳類を確認。希少種は ニホンジカ の3種。現状はニホンジカによる森林への被害は軽微と考えられる。
論文等の発表状況	資料調査	トガサワラに関する生態や遺伝構造、根に共生する菌根菌に関する論文や学会での発表がされている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	トガサワラの保護林を周知するための看板の設置、国立研究開発法人 森林研究・整備機構や大学による研究のフィールドとして利用されている。

評価・課題等	【確認された影響】ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 <u>カ その他</u> 保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られないが、トガサワラの後継木が少ない状況である。 後継木となる稚樹の発生と定着方法については、森林総合研究所が2022年に取りまとめる報告書の内容を踏まえて検討する。 現状では、目立ってニホンジカによる森林への被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。
--------	--

総括整理表				
保護林名	安田川山トガサワラ(遺伝資源)希少個体群保護林			
管轄森林管理局・署名	安芸森林管理署管内			
所在地	高知県馬路村(安田川山国有林 2227林班へ小班)			
面積	4.31 ha			
設定・変更年	設定: 昭和48年4月 変更: 平成30年4月			

保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約590~820mに位置し、暖温帯に属する。 トガサワラのほか、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、ウラジロガシ等が生育している。 希少種のトガサワラ(環境省レッドリスト(2015年)の「絶滅危惧ⅠB類(EN)」、高知県レッドリスト(2010年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」)が生育しており、保護林設定管理要綱の第4の3(2)のア「希少化している個体群」に該当する。 トガサワラの個体群の維持・増殖を目的に設定。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	過年度には森林プロット調査、トガサワラの毎木調査、哺乳類調査などが実施されている。 森林調査結果から、森林全体の衰退は見られないものの、トガサワラの後継木が少ない状況であったことから、トガサワラの世代更新が滞っていることが示唆された。 哺乳類調査結果では、プロット内でニホンジカが多く確認された。目立ってニホンジカによる森林への被害は見られないものの、今後の森林への被害を注視する必要がある。
	モニタリング実施間隔	5年(トガサワラの毎木調査は10年)			
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林【森林法】			

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て人工林。周辺も人工林が広く分布。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットでも胸高断面積合計は増加しており、目立って森林の衰退はないと考えられる。 プロット内のトガサワラは、成木の枯損木が増加したことに加え、実生及び稚樹が確認されておらず、後継木が定着していないと考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも下層植生の植被率は低く、低木層を欠くプロットが多い。 プロット内には、トガサワラの実生及び稚樹の生育は無し。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	5目10科14種の哺乳類を確認。希少種は カ カの3種。現状はニホンジカによる森林への被害は軽微と考えられる。
論文等の発表状況	資料調査	トガサワラに関する生態や遺伝構造、根に共生する菌根菌に関する論文や学会での発表がされている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	トガサワラの保護林を周知するための看板の設置、国立研究開発法人 森林研究・整備機構や大学による研究のフィールドとして利用されている。

評価・課題等	【確認された影響(ア)野生鳥獣 イ病虫害 ウ外来種 エ温暖化 オ自然攪乱(カ)その他】 保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られないが、トガサワラの後継木が少ない状況である。 後継木となる稚樹の発生と定着方法については、森林総合研究所が2022年に取りまとめる報告書の内容を踏まえて検討する。 現状では、目立ってニホンジカによる森林への被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。
--------	--